

おける「ひきこもり最前線の本・資料」と言えます。

H26年度「ひきこもり・ピアサポ・アンケート調査」の要点

ひきこもりの実態および
ピアサポーター養成・派遣に関する
アンケート調査報告書



研究開発法人 国立研究開発法人 AIST (独立行政法人)
2025. 2. 月

中蔵 26 年度 一 一 ア ー ケ ー ト 査 報 告 書
国 立 研 究 開 発 法 人 AIST

今年度は、家族310名、
本人58名、兄弟姉妹7名の
方々にご回答いただきました。
「継続は力なり」と言いた
ますが、この調査は継続して
12年、ご協力いただいた人
数は、延べご家族4783名、
ご本人705名に上ります。

今回の調査では、ピアサ
ポーターから支援を受けた
経験についてご回答いただ
き、ひきこもり経験者は

(次ページへ続く)

ピアサポWAM事業委員会開催 報告書完成 前頁からの続き

ひきこもり経験者から、ご家族はご家族から支援を受けた経験が多いことがわかりました。この結果からも、同じ経験をしたピアであることの強みが表れています。本人調査からは、昨年度よりもピアサポートを受けたことのある人が増えていることがわかりました。

また、本年度調査での平均年齢は、ご本人33・2歳、ご家族63・6歳でした。この結果から、現時点で定年を迎えたご家族が多いということがわかりますが、高齢化が進んでいることを考慮すると、今後さらに定年を迎えるご家族が増える想定されます。

そのため、今年度の生活困窮者自立支援法の施行を受け、ご本人やご家族の生活困窮化を防ぐための対策を各地域で促進することが喫緊の課題であることがわかります。(野中)



「H27年度社会福祉推進事業」(厚労省に申請中)の要点

◆申請額…1499万7千円

◆事業名…ひきこもりに関する新たな家族支援の在り方の構築及びピアサポーター養成研修派遣事業の効果の実施に関する調査研究事業

◆概要 要…平成27年度から施行される生活困窮者自立支援法施行を見据えて、複合的な問題を抱える者(家族)に対し、適切なアセスメントに基づく支援プロセスを提示するとともに、ひきこもり当事者及び家族に対し、早期の包括的支援を提供することを目的に、ひきこもりピアサポーターを養成し、実際に派遣することを通じて、より効果的な実施についての調査研究を行う。

サポーターの養成と派遣。◆内容…①ひきこもり支援に特化したガイドラインの作成 ②ひきこもり支援に特化したアセスメントシートの作成 ③ひきこもりピアサポーター養成研修派遣事業(フットローアップ研修、地域コーディネーター研修) ④ひきこもりピアサポーター養成研修テキストの標準化。H26年度「WAM事業報告」の要点 KHIJの本部と全国8ブロックで取り組んだWAM事業報告書(平成26年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業)が完成しました。



報告は全体で339頁、トップに池田代表の「はじめに」があり、「事業実施の背景にある『ひきこもり』の現状と課題」、「第一部：学習会活動報告」では本部と8ブロック(東北、北陸、関東、東海、近畿、中国、四国、九州)の学会集で発行された全資料が掲載されています。(300頁弱)と言う壮大な資料集です。

313頁から「第2部：学習会アンケート報告」があります。全国29地域で33回開催され、1916人の参加があり、そのうち1078人からアンケートの回答があり、その結果と分析が掲載されています。最後に「今後の家

族(仲間)の視点を持つ支援の提供 ⑤ピア

KHIJ本部を尋ねて



KHIJ本部の活動を全国の皆さんにお知らせしたいと、2月19日(ピアサポ事業委員会の翌日)、KHIJ本部を訪れ、池田代表と事務局の上田さんにお会いしてお話を伺いました。



「ひきこもり智慧本」を自治体へ届け要請を

これは、現在の日本における「ひきこもり智慧本」とも言えます。DVDも2種類付けて、近く、全国全支部をはじめ関係者にお届けします。

「生活困窮者自立支援法」スタートに伴い、絶好のタイミングで「自治体への広報ツール」としても有効に活用いただけます。

ペースを立ち上げ居場所を作りました。初めは本人の面接が主体で、フレンズスペースに来る子が親の一言で元気をなくすことを沢山経験。

そこで親の面接と親の講座を始め、「困った子ほど素晴らしい」を出版、臨床心理士の資格を取得、60歳で定年、東京都のスクールカウンセラーとして中学校2校へ派遣され、2000年頃から仲間10人とSCSを立ち上げ、故奥山さんと知り合い埼玉の月例会に参加。

KHIJ第1回東京大会が2002年にあり、東京での二つの支部が立ち上がり、楽の会の会長を引き受けたそうです。今までの経験から

はじめに楽の会月例会に子の居場所、親の学習会、無料電話相談、電話相談員養成講座を作りました。お父さん達に子の就労の事業を呼びかけましたがその時は形にならなかったそうです。

SCSは2011年、一般社団法人になり、依存関係にならないように本人面接は止めて集団の居場所ので仲間づくりを大切に親の面接を義務付け、親が変化していくと子供も変わっていくことが解かりました。

現在スタッフ14人、東京都の「若者社会参加応援事業」にも指定されています。若者は20、40代、時々10代も来ます。居場所の運営、フットサルではひきこもりの東京の大会で優勝するほど元気です。

ペースを立ち上げ居場所を作りました。初めは本人の面接が主体で、フレンズスペースに来る子が親の一言で元気をなくすことを沢山経験。

そこで親の面接と親の講座を始め、「困った子ほど素晴らしい」を出版、臨床心理士の資格を取得、60歳で定年、東京都のスクールカウンセラーとして中学校2校へ派遣され、2000年頃から仲間10人とSCSを立ち上げ、故奥山さんと知り合い埼玉の月例会に参加。

KHIJ第1回東京大会が2002年にあり、東京での二つの支部が立ち上がり、楽の会の会長を引き受けたそうです。今までの経験から

はじめに楽の会月例会に子の居場所、親の学習会、無料電話相談、電話相談員養成講座を作りました。お父さん達に子の就労の事業を呼びかけましたがその時は形にならなかったそうです。

SCSは2011年、一般社団法人になり、依存関係にならないように本人面接は止めて集団の居場所ので仲間づくりを大切に親の面接を義務付け、親が変化していくと子供も変わっていくことが解かりました。

現在スタッフ14人、東京都の「若者社会参加応援事業」にも指定されています。若者は20、40代、時々10代も来ます。居場所の運営、フットサルではひきこもりの東京の大会で優勝するほど元気です。

ひきこもりの方が元気に復活していけば、日本も安心できる国になると思う。しかし本部の事務局は大変です。事務局は私の家の客間をお貸ししました。(お

本部事務局 上田さんに聞く

KHIJの本部事務局は池田邸の8畳間ほどのゲストルームが使われていました。上田さんの他二人の若者がパソコンに向かい仕事に集中しています。上田さんは前夜から泊り込みで18日の会議を受けた文書作りに集中されている所でインタビューにに応じて頂きました。

H25年度から厚労省の「ピアサポ事業」が始まり、嬉しい事です。生活困窮者自立支援法がスタートする中で、家族会を知ってもらう絶好の機会です。是非、自治体に提供していただき、広報活動等にご利用下さい。

今後本部財政を健全化していくのは課題です。私は老子の現在を大切に(The way to do is to be)を信条にしています。

今年10月の香川大会では、愛知大会以降、新支部誕生(現16)、ピアサポーター事業あり、WAMでは社協や行政の方が沢山参加頂いており、これは「生活困窮者自立支援法」の効果がすぐ大きいと思います。こうした新しい変化を踏まえて、KHIJも外へ向け連携作りの活動をする元年になったと思っています。日本全国の人たちに、ひきこもりを解つて貰い、今、若い人達のいき詰まりは、

突然の悲報を聞いて

KHIJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」の上江田さんの悲報に言葉ありません。生前の活力のあるお姿を思い浮かべご冥福を心からお祈り申しあげます。すぐにでも飛んでいきかけたのですが、12日の葬儀にはKHIJとして、福岡「楠の会」の吉村文恵様に行つていただきました。二千人ものひとで、御花と弔電で一杯だったそうです。石垣島の山田氏はお通夜に行かれ、「風に舞う花びらが束の間に彼方へ消えた」との追悼文をいただきました。他に、稲垣みどり様、田口ゆりえ様、松本太郎様、山本洋見様から弔電いただきました。惜しい方がなくなり残念です。(池田)

陰で私は独居老人にならず助かっています。事務局に正當な月給がでていません。「現在は補助金があり何とかなっている」とのことでした。

希望は、新しい支部が13支部発足し合計50支部になり、出来たら近隣の先輩支部の協力をお願いしたい。ピアサポやWAM学習会の事業報告書もまもなく完成します。生活困窮者自立支援法がスタートする中で、家族会を知ってもらう絶好の機会です。是非、自治体に提供していただき、広報活動等にご利用下さい。

今後本部財政を健全化していくのは課題です。私は老子の現在を大切に(The way to do is to be)を信条にしています。

今年10月の香川大会では、愛知大会以降、新支部誕生(現16)、ピアサポーター事業あり、WAMでは社協や行政の方が沢山参加頂いており、これは「生活困窮者自立支援法」の効果がすぐ大きいと思います。こうした新しい変化を踏まえて、KHIJも外へ向け連携作りの活動をする元年になったと思っています。日本全国の人たちに、ひきこもりを解つて貰い、今、若い人達のいき詰まりは、



「ひきこもり 親の歩みと子どもの変化」著者：船越明子さん
（三重県立看護大学准教授）（新曜社）ISBN978-4-77885-141-8・8 C10037 ¥1800

著者の船越さんから「この度、ひきこもりについて親御さんにインタビューをさせて頂きました内容を一冊の本にまとめて出版しました。インタビューの実施にあたっては伊藤さんには多大なご協力を頂き、本当に感謝しております。そこで、伊藤さんに拙著をお送りしたい」と。1月25日発行の初版第一刷が届きました。

私は早速拝見、「わたしは待ち望んだ本だ」「ひきこもりで悩み苦しむ家族に是非読んで欲しい本だ」と思いました。

著者・船越明子さんにインタビュー
約10年前、船越さんから「私は、東京大学大学院医学系研究科博士課程にて、地域精神保健サービスに関する研究を行っております。このたび、川上憲人教授（東京大学大学院医学系研究科精神保健・看護学分野）の指導のもと、ひきこもり青年を抱える家族をテーマに博士論文執筆に向けた研究に取り組むことになりました。つきましては、『ひきこもり青年を抱える家族の援助ニーズに関する研究』に関する調査について、ご協力をお願いしたく存じます。」と連絡があり、なでしこの会の月例会で家族の皆さんにお話ししてインタビューにに応じていただきました。その研究がまとまり本になりました。

2月5日、大学近くの喫茶店で再会し、お話を伺いました。

Q1…この支援をはじめられた動機は何ですか？
A1…臨床（児童・思春期精神科や訪問看護）にいた時に、問題をもつ子ども、当事者に自分が一生涯懸命関わっても、家族が十分にケアしてくれないと、子どもの問題がなかなか解決されないという経験が多かったので、「家族」がネックなんだ、という思いがぼんやりとありました。

Q2…インタビューの対象と数、場所やエピソードなどは？
A2…対象はお父さん6名とお母さん12名、支援者3名です。一番こだわったのは父親の声を結果に反映したいという点です。個人的に私は従来の性的役割分担に反対の意見をもっていて、不登校・ひきこもりと子育てが並べて語られることに違和感がありました。

ただ、お父さんが大切だと本当にわかったのは、インタビューの3人目くらいで、「夫婦一緒にお願います」といつて下さった方がいて、父親、母親それぞれの目線で自分のこと、子どものことを話してくれたのを聞いた時です。夫婦として、家族として、同じことをみている、違うように捉えている、事実はひとつではないということを目の前に突きつけられました。

Q3…インタビューを終わって、文章化はとも大変だったとおもいます。その苦労話や分析方法は？
A3…一般の方向けに文章を書くのが初めてだったので、わかりやすくストーリーだてて興味をもって読んで頂けるように工夫しました。インタビューの逐語録とフィールドノートを全部読み直して、文脈をも一度確認しました。

私は、大学に勤める者なので、論文や解説文を書くのには慣れているのですが、

「不登校」状態の人がいたのと、「ひきこもり」というのが病気なのか、何の問題なのか不明瞭な現象で、知りたいと思ったからです。

分析は、きちんとした研究方法に則って行なった。ただ、インタビューでお聞きした話のうち、厳密に研究結果として論文に掲載できて目の目を見ることができない範囲はごくごく一部だいたい50分の1くらい。この残りの部分も含めて、一般向けの本では書くことが出来た。

Q4…10年間の研究の発展過程（例えば10年間の前半、中盤、後半と分け、川上教授の助言、親の会での講演と反響、支援者や大学での生徒の関心と反響など）
A4…最初は、きちんとした研究をしようというシンブルな思いでした。自分は大学院生で、博士論文を書かなければいけない身分だったので、とにかく研究としてある程度立派に仕上げるのが自分にできることだと思っていました。

それが、実際にご家族や当事者の方と様々な出会いがある中で、もっと大事な事自分にはできることがあるのではないかという思いが段々強くなってきて、自分の立ち位置がわからなくなり、葛藤を感じた時期が長く続きました。目の前に困っている人たちがいて、自分はその人を傍観しているだけの人間のように感じたので、私のインタビューは自分の研究のためにやっていることであって、インタビューにに応じてくれた人には何も役に立たないんじゃないか、という思いです。

家族会や精神保健福祉センター等で講演の話があった

Q5…最後に、自由に一言言いたい事は？
A5…（この本を）道しるべにしてほしい。自分にいったい何がおこっているのか、これから自分はようになっていくのか、を知ることが大切だ。

時も、こうした葛藤のさなかだったと思います。三重県に家族会を！という活動。その後、三重県でいろいろな地域貢献活動をしていく中で立場を超えて分かち合える、お互いに学び合える地域づくりをしたい。できることをしよう。

Q6…今後
A6…当事者のことを知りたい。当事者が、家族をどのようにみているのか、ひきこもっている間の当事者の成長、その時間が無駄でない事を証明したいな。

◆船越さんは、2015年4月から兵庫県立大学看護学部勤務されます。

Q1…この支援をはじめられた動機は何ですか？
A1…臨床（児童・思春期精神科や訪問看護）にいた時に、問題をもつ子ども、当事者に自分が一生涯懸命関わっても、家族が十分にケアしてくれないと、子どもの問題がなかなか解決されないという経験が多かったので、「家族」がネックなんだ、という思いがぼんやりとありました。

「ひきこもり 親の歩みと子どもの変化」著者：船越明子さん
（三重県立看護大学准教授）（新曜社）ISBN978-4-77885-141-8・8 C10037 ¥1800

著者の船越さんから「この度、ひきこもりについて親御さんにインタビューをさせて頂きました内容を一冊の本にまとめて出版しました。インタビューの実施にあたっては伊藤さんには多大なご協力を頂き、本当に感謝しております。そこで、伊藤さんに拙著をお送りしたい」と。1月25日発行の初版第一刷が届きました。

私は早速拝見、「わたしは待ち望んだ本だ」「ひきこもりで悩み苦しむ家族に是非読んで欲しい本だ」と思いました。

著者・船越明子さんにインタビュー
約10年前、船越さんから「私は、東京大学大学院医学系研究科博士課程にて、地域精神保健サービスに関する研究を行っております。このたび、川上憲人教授（東京大学大学院医学系研究科精神保健・看護学分野）の指導のもと、ひきこもり青年を抱える家族をテーマに博士論文執筆に向けた研究に取り組むことになりました。つきましては、『ひきこもり青年を抱える家族の援助ニーズに関する研究』に関する調査について、ご協力をお願いしたく存じます。」と連絡があり、なでしこの会の月例会で家族の皆さんにお話ししてインタビューにに応じていただきました。その研究がまとまり本になりました。

2月5日、大学近くの喫茶店で再会し、お話を伺いました。

Q1…この支援をはじめられた動機は何ですか？
A1…臨床（児童・思春期精神科や訪問看護）にいた時に、問題をもつ子ども、当事者に自分が一生涯懸命関わっても、家族が十分にケアしてくれないと、子どもの問題がなかなか解決されないという経験が多かったので、「家族」がネックなんだ、という思いがぼんやりとありました。

Q2…インタビューの対象と数、場所やエピソードなどは？
A2…対象はお父さん6名とお母さん12名、支援者3名です。一番こだわったのは父親の声を結果に反映したいという点です。個人的に私は従来の性的役割分担に反対の意見をもっていて、不登校・ひきこもりと子育てが並べて語られることに違和感がありました。

ただ、お父さんが大切だと本当にわかったのは、インタビューの3人目くらいで、「夫婦一緒にお願います」といつて下さった方がいて、父親、母親それぞれの目線で自分のこと、子どものことを話してくれたのを聞いた時です。夫婦として、家族として、同じことをみている、違うように捉えている、事実はひとつではないということを目の前に突きつけられました。

Q3…インタビューを終わって、文章化はとも大変だったとおもいます。その苦労話や分析方法は？
A3…一般の方向けに文章を書くのが初めてだったので、わかりやすくストーリーだてて興味をもって読んで頂けるように工夫しました。インタビューの逐語録とフィールドノートを全部読み直して、文脈をも一度確認しました。

私は、大学に勤める者なので、論文や解説文を書くのには慣れているのですが、

家族に希望と元気が生まれる 通書

「ひきこもり 親の歩みと子どもの変化」著者：船越明子さん
（三重県立看護大学准教授）（新曜社）ISBN978-4-77885-141-8・8 C10037 ¥1800

著者の船越さんから「この度、ひきこもりについて親御さんにインタビューをさせて頂きました内容を一冊の本にまとめて出版しました。インタビューの実施にあたっては伊藤さんには多大なご協力を頂き、本当に感謝しております。そこで、伊藤さんに拙著をお送りしたい」と。1月25日発行の初版第一刷が届きました。

私は早速拝見、「わたしは待ち望んだ本だ」「ひきこもりで悩み苦しむ家族に是非読んで欲しい本だ」と思いました。

著者・船越明子さんにインタビュー
約10年前、船越さんから「私は、東京大学大学院医学系研究科博士課程にて、地域精神保健サービスに関する研究を行っております。このたび、川上憲人教授（東京大学大学院医学系研究科精神保健・看護学分野）の指導のもと、ひきこもり青年を抱える家族をテーマに博士論文執筆に向けた研究に取り組むことになりました。つきましては、『ひきこもり青年を抱える家族の援助ニーズに関する研究』に関する調査について、ご協力をお願いしたく存じます。」と連絡があり、なでしこの会の月例会で家族の皆さんにお話ししてインタビューにに応じていただきました。その研究がまとまり本になりました。

2月5日、大学近くの喫茶店で再会し、お話を伺いました。

Q1…この支援をはじめられた動機は何ですか？
A1…臨床（児童・思春期精神科や訪問看護）にいた時に、問題をもつ子ども、当事者に自分が一生涯懸命関わっても、家族が十分にケアしてくれないと、子どもの問題がなかなか解決されないという経験が多かったので、「家族」がネックなんだ、という思いがぼんやりとありました。

Q2…インタビューの対象と数、場所やエピソードなどは？
A2…対象はお父さん6名とお母さん12名、支援者3名です。一番こだわったのは父親の声を結果に反映したいという点です。個人的に私は従来の性的役割分担に反対の意見をもっていて、不登校・ひきこもりと子育てが並べて語られることに違和感がありました。

ただ、お父さんが大切だと本当にわかったのは、インタビューの3人目くらいで、「夫婦一緒にお願います」といつて下さった方がいて、父親、母親それぞれの目線で自分のこと、子どものことを話してくれたのを聞いた時です。夫婦として、家族として、同じことをみている、違うように捉えている、事実はひとつではないということを目の前に突きつけられました。

不登校・ひきこもりの方も安心

教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、
1人1人の生徒を育みます。

生徒第一…だから
生徒1人1人と向き合う
『1/1の教育』で生徒の
自信と意欲を養います。

通信制高校（広域通信・単位制）
第一学院高等学校
4月よりウィザース高等学校・ウィザース ナビ高等学校
から学校名を変更し、生まれ変わりました

TEL 0120-761-080 www.daiichigakuin.ed.jp
全国76キャンパス（平成24年3月現在）

ピーワン頭皮洗浄でエイジングケア

ストレスは万病の基と現代医学は指摘
頭皮は様々なツボが存在する大切な場所。
頭皮の血流促進、リンパの流れを整えスッキリ
リラックスし、ストレスを解消することは思わぬ
悩みや健康の回復にもつながります。

全国 5000 店舗以上の理・美容室、エステ
サロンで導入され各種メディアでも話題。

美と健康と環境をテーマにしたピーワンサロンです

ともめ美容室 心身でお悩みの方
（ピーワン岩槻）
ご連絡下さい

〒339-0082 さいたま市岩槻区西原台 2-1-144
Tel・Fax 048-757-4044
携 帯 090-4812-0488（石塚 友友）
E-mail:tomomebs-1@theia.ocn.ne.jp

雑誌 STORY や健康でも BeOne サロン
での頭皮洗浄や読者体験談が掲載されま
した。BeOne 頭皮洗浄の優れた効果

社会不安障害総合情報サイト
SADとは「Social Anxiety Disorder」の略称。社会不安障害と呼ばれる病気のことで、

SAD NET

人前で話したり、食べたり、書いたりしようとする
と、不安や恐怖をおぼえて赤面する、汗が出る、震
えや口の渇きがおきる。本人がどんなに苦しくても
周りにはなかなかその辛さが伝わらない。この症状、
実は脳内物質に関する機能異常による病気の可能性
が高いのです。

・おおよその SAD（社会不安障害）をチェック可
・どこへ行けば治療して貰えるの？
全国 2500 ヶ所の SAD 対応病院が検索できます。

社会不安障害の総合情報サイト
URL : <http://www.sad-net.jp/>

KHJは50支部になり 池田代表東奔西走する



1月12日、KHJ三重の会が津に出来、名古屋オレンジの会、名古屋なでしこの会でバックアップした。2月11日67歳の元当事者近藤氏が135名の親などを集め、福井すいせんの会が発足した。会場ではある父親が「光が見えました」と感想を述べていた。

2月28日には熊本家族会が出来、福岡・大分の方々が

が応援に来て池上氏のひきこもりの現状、池田氏のひきこもりを元気にする親の対応の話があった。3月7日兵庫県六栗市のひまわりの家で家族会が発足した。3月15日群馬はるかぜの会が中垣内先生と埼玉支部の応援で発足。同日福島花ももの会が山形のカラコロの支部の応援で出来た。出来たての会は会の運営費用や人での四苦八苦、親達が自分の子どもの事だけではなく困難を乗り越えてこそ、当事者の苦しみからの脱却がある

全国組織として親の会の再構築

徳島大学大学院 境 泉洋



KHJ親の会が全国組織として果たすべき最も重要な使命は、ひきこもりの当事者と家族が所属できるコミュニティを構築することです。コミュニティとは、地理的に近い地域だけを意味するのではなく、人と人とのつながる関係性のことも意味します。

ひきこもり当事者と家族のコミュニティを構築する上で、全国組織であるKHJ親の会でしかできないことがあります。それは、KHJ親の会というコミュニティ



ひきこもり
中垣内正和
精神科医・医学博士

ルポ「ひきこもり」
価格800円



訪問サポート士養成
教本(基礎編)
価格1000円
FAX 048(756)7802
ひきこもり理解への必読所として

無料(通信料は自己負担)

引きこもり電話相談

☎ 03-5944-5720

火・木・土 PM1:00～5:00

第4土曜・祭日休み

「楽の会リーラ」

問合せ NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) ☎ 03-5944-5250

☆親の会 (月例会) 問い合わせ先 (2015年4月15日現在) 月例会に参加して気を楽しんだり情報交換しませんか

東北・北海道
KHJ 北海道「はまなす」(北郷恵美子) 〒064-0824 札幌市中央区北四条西 26 丁目 3-2 ☎090-3890-7048 ☎&FAX 011-631-0981
NPO 法人岩手県青少年自立支援センター「ボランの広場」家族会 (泉 勝夫) 〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町 19-8 ☎019-605-8632 FAX 019-605-8633
KHJ 青森県「アップルの会」(川村克彦) ☎&FAX 0178-88-5297 〒039-1212 青森県三戸郡階上町蒼前西 5-9-1634 サウナス内
KHJ 青森「さくらの会」(下山洋雄) 〒030-0844 青森県青森市桂木 3-25-10 ☎090-8613-5561 FAX 017-723-1754
秋田県「かだれ会」(長信田の森心療クリニック) 〒018-2303 秋田県山本郡山本町森丘字石倉沢 1-2 ☎0185-72-4133 FAX 0185-72-4134
NPO 法人 KHJ 宮城県「タオ」(武田和浩) 〒987-2183 栗原市高清水袖山 62-18 FAX 0229-87-3449 ☎080-3193-6715
NPO 法人山形県「から・ころセンター」(伊藤正俊) 〒992-0026 米沢市東 2-8-116 ☎&FAX 0238-21-6436
福島県ももの会 問合せ本部 ☎03-5944-5250 FAX 03-5944-5290へ
関東ブロック
NPO 法人楽の会リーラ (市川乙允) ☎&FAX 03-5944-5730 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 3-16-12 第二塚本ビル 202
KHJ 西東京「萌の会」(須賀 啓二) 〒121-0064 東京足立区保木間 2-8-13 FAX 03-3883-2358 (TEL は無し)
NPO 法人 KHJ 埼玉けやきの会家族会 (田口ゆりえ) 〒331-0805 さいたま市北区盆栽町 190-3 ☎&FAX 048-651-7353 ☎080-3176-6674
NPO 法人 KHJ 千葉県なの花会 (藤江幹子) 〒260-0042 千葉市中央区椿森 1-2-2 志村荘 201 ☎090-8491-0971 FAX 043-294-7629
KHJ 神奈川県「虹の会」(安田賢二) ☎080-2107-1171 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 12 階 プラザタワー気付 No. ②
NPO 法人 KHJ とちぎベリー会 (齋藤三枝子) 〒321-0954 宇都宮市元今泉 5-9-7 宇都宮市まちづくりセンター まちびあ内 2F ☎090-1846-4004 FAX 028-663-5022
グループコスモス (瓜生 武) 〒145-0066 東京都大田区南雪谷 2-11-5 ☎080-3255-4161 ☎&FAX 03-3728-4488
KHJ 茨城県「ひばりの会」(荒井 俊) 〒271-0064 松戸市上本郷 857 北松戸成川ビル 3F フレンドスペース内 ☎047-364-7332 FAX 047-362-4065
KHJ 山梨県「桃の会」(篠原博子) 〒409-0126 山梨県上野原市コモアしおつ 1-4-3 ☎0554-66-4073
KHJ 静岡県「いっぴく会」(上杉博美) ☎090-5036-2552 ☎&FAX 054-245-0766 〒420-0884 静岡市葵区大岩本町 25-2
KHJ 群馬「はるかぜの会」(榎本 明) 〒370-0126 群馬県伊勢崎市境下武士 2551-1 ☎090-3209-3015

東海ブロック
NPO 法人 なでしこの会 (大脇正徳) 〒456-0032 名古屋市熱田区三本松町 15-13 神宮東ビル A2 階 ☎&FAX 052-882-1119 ☎090-4195-2674
みえオレンジの会 (堀部 尚之) ☎090-6469-5783 〒514-009 三重県津市羽所町 700 津 3 県民交流センター内
NPO 法人名古屋オレンジの会 (山田孝介) ☎&FAX 052-459-5116 〒453-0015 名古屋市中村区椿町 19-7 弥生マンション椿町 304
豊田大地の会 (酒井 信夫) 〒470-1211 豊田市歓部東町上梅ノ木 12 ☎0565-21-0177
KHJ 岐阜県「鶴の会」(鈴木美登里) ☎090-6585-5770 〒453-0015 名古屋市中村区椿町 19-7 チサンマンション椿町 304
NPO 法人 てくてく (山本洋見) ☎053-442-6365 〒432-8054 静岡県浜松市南区田尻町 208-2 ☎090-1416-6224
北陸ブロック
NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」(三膳克弥) 〒950-0167 新潟県新潟市江南区五月町 1-2-9 ☎090-8873-4435 ☎&FAX 025-382-6912
KHJ 北陸会 (所田澄子) 〒920-0813 石川県金沢市御所町丑 57 ☎&FAX 076-252-4856
とやま大地の会 (米谷貞吉) ☎090-3768-1733 〒930-0325 富山県中新川郡上市町三日市 2-18 (山岡方)
福井すいせんの会 (近藤 茂樹) ☎&FAX 0776-34-1470 〒918-8057 福井県加茂河原 1-5-10
近畿ブロック
NPO 法人京都オレンジの会 (稲垣 緑) 〒605-0028 京都市東山区三条通大橋東分木町 74-3 東山三条ライオンビル ☎&FAX 075-752-0289
NPO 法人大阪虹の会 (前川 実) ☎&FAX 072-265-2021 〒592-0011 高石市加茂 1-13-26
NPO 法人 KHJ 「つばさの会大阪」(大塚 洋) 〒573-0027 枚方市大垣内町 1-3-1 ライトビル 4F ☎090-8378-8032 ☎072-844-2423
KHJ 情報センターふきのとう姫路 (櫛橋行雄) 〒670-0896 兵庫県姫路市上大野 1-11-6 FAX 079-224-5259 ☎090-8373-8032
兵庫県六栗支部 ひまわりの会 家族会 (松本 むつみ) 〒671-2552 兵庫県六栗市山崎町段 194-1 ☎&FAX 0790-65-9205
中国ブロック
KHJ 岡山きびの会 (槌谷富子) ☎&FAX 086-262-9335 〒702-8022 岡山市南区福成 1-128-4
KHJ 福山「はらの会」(中村 友紀) 〒720-0031 広島県福山市三吉町 3-1-10 三島ビル 3F ☎084-959-3358 FAX 084-959-3357
KHJ 山口県「きらら会」(上田十太) ☎&FAX 0837-22-5495 〒759-4102 長門市西深川 2850-3
KHJ 広島もみじの会 (藤岡 清人) 〒731-5137 広島市佐伯区美の里 2-1-39-801 (岡本方) ☎090-7375-6659 ☎&FAX 082-924-2922
鳥取らくだ会 (田中隆雄) 〒680-0074 鳥取市卯垣 5-60-F-4 ☎090-4653-2554

教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、
1人1人の生徒を育みます。

不登校・ひきこもりの方も安心

生徒第一…だから

高認・大学受験予備校
通学科 通信科
4月より第一高等学院から学校名を変更し、生まれ変わりました

TEL 0120-936-358 www.daiichigakuin-kounin.jp

【本部事務局】 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)
☎03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 info@khj-h.com
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 3-4-4
【ご寄付お振込口座】 ゆうちょ銀行 口座記号：00110-6
口座記号：708246
特定非営利活動法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

四国ブロック
NPO 法人 KHJ 香川県オリーブの会 (川井富枝) 〒761-0104 高松市高松町 2574-9 ☎&FAX 087-843-9877 ☎090-4332-3288
KHJ 徳島県「つばめの会」(高橋浩爾) 〒776-0014 吉野川市鴨島町知恵島 372-6 ☎090-1325-2740 ☎&FAX 0883-24-0507
KHJ 高知県親の会「やいろ鳥」の会 (坂本勲) 〒781-5205 高知県高知市一宮しなね 1丁目 14-10-1 ☎090-3184-8109 FAX 088-862-0740
KHJ 愛媛県こまどりの会 (武田邦寛) 〒791-8012 愛媛県松山市姫原 2 丁目 7-33 サトノ姫原 505 ☎090-7578-4214 FAX 089-923-3367
九州・沖縄
KHJ 福岡県「楠の会」(吉村文恵) 〒810-0003 福岡市中央区春吉 1-7-18 竹内ビル 2F ☎090-8222-7403 ☎&FAX 092-731-3091
NPO 法人熊本ランチ (武井敬蔵) 〒860-0072 熊本市花園 7-2435-12 ☎096-322-3548 FAX 096-322-3787
KHJ 熊本家族会 熊本県精神保健福祉センター ☎096-386-1166
KHJ みやざき「楠の会」(植田美紀子) 〒880-0944 宮崎市江南 4-9-9 植田方 ☎090-9603-8780 ☎&FAX 0985-53-2666
KHJ 鹿児島県「楠の会」(福留順一) 〒891-0704 南九州市嶺娃町別府 1243 ☎090-7156-6241 ☎&FAX 0993-38-1421
KHJ 大分県「大分ステップの会」(松本太郎) 〒879-5102 由布市湯布院町川上 3604-14 ☎090-1163-8582
KHJ 沖縄「ていんさぐぬ花の会」(棚原 初枝) 〒904-2171 沖縄県沖縄市高原 7-34-29 NPO 法人サポートセンターゆめさき内 ☎&FAX 098-930-1066